

県 外 派 遣 報 告 書

大会名	令和元年度 関東高等学校女子バスケットボール大会	開催地	茨城県日立市
報告者名 (所属連盟)	若林謙作 赤羽沙耶 慶野芽以	派遣期間	令和元年 6月7日～9日
参加者 (所属都県)	本部: 渡邊整(栃木)、嶋崎貴(東京) 指名: 星野由貴(群馬)、竹澤友美(埼玉)、小坂井郁子(神奈川) 群馬: 穂川苑子、小澤朋克、内野翔太、斎藤慶子 埼玉: 小柳幸子、北島寛臣、大井陽平、藤林比登美 千葉: 中嶽希美子、大川尚、山田綾音、佐藤拓哉 東京: 小田中涼子、向井和宏、伊佐牧子、中野嗣久 神奈川: 茂泉圭治、大澤尚樹、松尾梨紗、浅見好美 山梨: 河野仁、丸山淳、前田菜津子、田中翔馬 栃木: 赤羽沙耶、梶崇司、若林謙作、慶野芽以 茨城県内審判員		

【審判会議内容】

○インテグリティについて (渡邊整 関東ブロック長)

- ・インテグリティ：一般の方々への見苦しい振る舞いをなくす
 ⇒ 感情的になることなく、シンプルに判定
 リスペクトフォーザゲームの観点から、起きた振る舞いに対して判定
- ※インテグリティに関する案件 = コーチが選手に対する暴言や暴力行為 ... TF(C)の対象

見苦しかったらTF
軽微なものだったらOW

- ・不要なTFをなくすためにも、コミュニケーション力を高めることが必要
 まず、競技規則・ガイドライン等に則って判定。判定の根拠とPOCを明確に説明できるようにする。
 基準や理由を選手やコーチと共有することで、より良い試合に！

ゲーム中に取りべきコミュニケーションとは、？

○ **Question** (どうしてファウルですか? etc) = お互いの理解を深めるためのコミュニケーション
 ⇒ 答えを明確にすることで試合の質を上げる

× **Statement** (ファウルでしょ! なんぞ吹かないの? etc) = 一方的な感情を当てるだけの発言

○新ルールについて (指名: 小坂井郁子 氏)

新ルールについて、一つ一つ丁寧に確認しながらお話をいただいた。
 新ルールの適用にあたり、ショットクロックの秒数や、ボールのステータス(ボールの保持・非保持の判断も含め)をクルーで丁寧に確認しながらゲームを進行することがより大切。
 ⇒ ex) OOBのボールの保持・非保持 ... 「ん?」と思ったら必ず確認 etc

○ガイドラインについて (指名: 星野由貴 氏)

ガイドラインについて映像を確認しながら改めて共通理解を図った。
 「ガイドラインの理解 = ゲームで判定できる」ではない。
 慣れてきた時こそ、ガイドラインに戻ることも大切。
 ⇒ 現象は、プレイの入口・出口のそれぞれで起こる。
自分が今何のプレイを捕まえているのか。何が起こりそうなのか。
何が起こるかもしれないの意識を! その先に意識がいつてしまうと、捉えられなくなる。

○メカニクスについて (指名: 竹澤友美 氏)

メカニクスの中でも、今回は「クルーワーク」に関する事例を中心にお話をいただいた。
 『There is one game, three referees, but still only one officiating team』
primaryとは、一人だけが判定をするということではない。
 特にクルーワークとして意識すべきものは、、、
EOG・EOQ、3or2、OOB、FTの数・シューターの確保、foul count
 ex) EOG・EOG... primaryはオポジットだが、それ以外のレフリーも1secondとしての把握・準備が必要。
 3or2... SCRからのshot。SCRとshotをそれぞれ確認しなければならず、一人で全ての確認は難しい。

県外派遣 審判ミーティング記録表

【グループミーティング】準決勝終了後に各コートでグループミーティングを行った。

対戦カード	Aブロック準決勝 埼玉栄(埼玉) - 昭和学院(千葉)
審判員	CC: 渡邊整(本部) U1: 小田中涼子(東京) U2: 一色渉(茨城)
担当	内野翔太(群馬)、佐藤拓哉(千葉)、田中翔馬(山梨) 藤林比登美(埼玉)、尾花幸雄(茨城)、根反祥恵(茨城)、慶野芽以(栃木) 主任: 北島寛臣(埼玉)

◇ ミーティングの内容

・ゲームの序盤でテンポセット、そしてゲーム終盤において、プレイヤーが頑張りすぎてしまったプレイに対して丁寧な笛を入れることで、スムーズなゲーム展開であった。

・インサイドのポジション争いについて、コーチからアピールがあったケース。

コーチ「インサイドでうちが面を取るときに、DFがぶつかってきていないか？」

発言を受け入れた後のレフリーサイドの返答「OFも、DFに体を預けすぎていると私たちはみえています」

その後、コーチのアピールは落ち着いた。

⇒ コーチの疑問に対し明確な根拠・理由を踏まえて対応している。

レフリーサイドの考えをコーチに伝えることも、大切なコミュニケーションになる。

(ただ、「(DFは)ノーファウルです」等の根拠がはっきり見えない返答ではない)

判定の根拠も、試合の要所要所でクルー内で共有されており、判定に一貫性があった。→信頼に繋がる

県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:令和元年 6月 8日(土)

審判員名	若林 謙作(U1)	CC	小田中 涼子(東京)
カード	(A) 1回戦 市立船橋(千葉) 対 竜ヶ崎第二(茨城)	U2	伊佐 牧子(東京)
◇ ミーティングの内容			
・3人のクルーワークがとても良かった。			
アイコンタクトが多く、交代が多くてもしまったゲームになった。			
リスタートがとてもスムーズで、次に自分が何をしなければいけないのかが明確だった。			
・ハンドチェックなど、基準が明確だった。			
異質な触れ合いについて、起きた時にきちんと判定できていた。			
・24秒オーバーをTから判定したが、C側のリングをかすめていた。			
その後の処置がスムーズだった。(コミュニケーションをとって適切な処置を行った。)			
・8秒オーバーのケースで、フロントコートで触れたのか?バックコートで触れたのか?確認が不足していた。			
《審判主任》 星野 由貴 氏(指名)			

割当日:令和元年 6月 8日(土)

審判員名	若林 謙作(CC)	U1	土橋 美陽(茨城)
カード	(B) 2回戦 正智深谷(埼玉) 対 相模女子(神奈川)	U2	薄井 基(茨城)
◇ ミーティングの内容			
・CCとしてテンポセッティングができていた。			
・クルー全員の試合終盤での笛の入れ方が、とても良かった。			
TからCサイドのリバウンドに対する触れ合いについて、判定出来たら完璧だった。			
・ポストでのやり取りについて、笛を入れるタイミングを考える。もっと長くプレイを見る。			
・UF、OOB、24秒、ゲームクロックについて、クルーで集まる必要があるケースがあった。			
そうすることでもっと試合を審判がコントロールしている印象を与えられる。ゲームが締まる。			
《審判主任》 北島 寛臣 氏(埼玉)			

【感想・県内審判員へ伝えたいこと】

今回1泊審判員として参加しました。大会初日に1回戦と2回戦の2試合割当てを頂きました。AブロックのオープニングゲームとBブロックの2回戦の試合で、どちらもリードチェンジが多くあり、とても白熱した試合展開となりました。そんな中で審判員として、試合を運営していくことの難しさと、クルー3人が協力していくことの大切さを感じました。常に3人がクルーチーフメンタリティーで、試合の流れ、プレイの流れを感じ取ることが大切であり、プレイヤーやコーチ、観客と一体となって試合を作り上げることが必要であると認識しました。そのきっかけとして私たち審判員が常に心掛けなければいけないのは、コミュニケーションであると感じました。それはクルーでのコミュニケーションだけでなく、時にはプレイヤーやコーチ、TO、フロアキーパーに至るまで、多くのチャンスがあります。そのチャンスを生かすことで、その後の試合展開に大きく影響を与えることがあると感じました。これからの審判活動に今回の経験を生かし、更にレベルアップを図っていきたいと思います。

最後に、今回このような経験を与えていただいた渡邊諭本県委員長をはじめ県内審判員の方々に、感謝申し上げます。また茨城県の審判員の方々には、細部に至るまでご配慮いただきました。改めて感謝申し上げます。

県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:令和元年 6月 8日(土)

審判員名	赤羽 沙耶(U2)	CC	小坂井 郁子(指名)
カード	(A) 2回戦 千葉英和(千葉)－東京成徳(東京)	U1	大井 陽平(埼玉)
◇ ミーティングの内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・テンポセットも必要だが、RSBQをよく見て判定する。 ・1Qでファウル3つのプレイヤーがいたが、クルーで分かっている取り上げたのか。 			
《審判主任》 中嶽 希美子 氏(千葉)			

割当日:令和元年 6月 9日(日)

審判員名	赤羽 沙耶(U2)	CC	武藤 陽子(茨城)
カード	(B) 準決勝 正智深谷(埼玉)－佼成学園(東京)	U1	穂川 苑子(群馬)
◇ ミーティングの内容 (グループミーティング)			
<ul style="list-style-type: none"> ・外のプレイヤーのトラベリングが判定できていない。 ・リバウンドについて。シリンダー外からの飛び込みに対する判定を丁寧に。 ・ベーシックなことを当たり前に行うこと(C to Cの入り方、Lは4秒以内に入る等)。 ・TO管理。タイマー管理。 ・ゾーンディフェンスの時のローテーションのタイミングはクルーでどのように話していたか。 ◇基本的にはマンツーマンディフェンス同様、ミッドレインから出たらローテーション。 ディフェンスの向きやプレッシャーの掛け具合、オフェンスがどのようにペイントエリアを使おうとしているかをよく見て必要に応じてローテーション。 			
《審判主任》 古畑 香子 氏(茨城)			

【感想・県内審判員へ伝えたいこと】

今回初めて2泊審判員として派遣を頂き、初日にはAブロックの2回戦を、2日目にはBブロックの準決勝の割当を頂きました。審判会議でお話頂いた通り、とくにクルーワークについて意識して取り組み、プライマリーだけに任せるのではなくクルーで判定していくことが大切だということを改めて学ぶことができました。このことを更に追及し、県内審判員の皆様にも伝達していけるよう、今後も取り組んでいきたいと思っております。

最後になりますが、今回の派遣に際しましてご配慮いただきました渡邊整関東ブロック長、渡邊諭県審判長はじめ県内審判員、茨城県審判員、大会関係者各位に心より感謝申し上げます。

県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:令和元年 6月 8日(土)

審判員名	慶野 芽以(U1)	CC	茂泉 圭治(神奈川)
カード	(B) 1回戦 明秀日立(茨城) 対 幕張総合(千葉)	U2	斎藤 慶子(群馬)
◇ ミーティングの内容			
<p>・ 3人で頻りにアイコンタクトが取れており、良いクルーワークでゲームが進められていた。 ファウル等に対してダブルホイッスルが生じた際に、誰がprimaryなのか。 そこでさらにアイコンタクトが取れていたら、より良かった。 ⇒カンファレンスでアイコンタクトを取ることを共有。 FTの本数や、OOBの確認等、1回1回しっかりとアイコンタクトを取ることで、常に3人で確認し合いながらクルーとして丁寧にゲームを進めることができた。</p> <p>・ オフボールのプレイによく目が当たっており、要所要所でしっかりと判定がされていた。</p> <p>・ 声をもっと有効的に使えと、より良かった。 ⇒TOレポート以外のところでの工夫。OOBの差し直しなど、声を使うことでより空気が締まる。</p>			
《審判主任》 小坂井 郁子 氏 (指名)			

割当日:令和元年 6月 8日(土)

審判員名	慶野 芽以(U2)	CC	星野 由貴(指名)
カード	(A) 2回戦 埼玉栄(埼玉) 対 市立船橋(千葉)	U1	大澤 尚樹(神奈川)
◇ ミーティングの内容			
<p>・ プレイに対する準備(ポジションアジャスト)を追及する。(特にセンター) 準備ができているときは良いコールが多いが、準備ができていないケースがあった。</p> <p>・ コーチが近づいてきてアピールをされた際の絵面が悪い。 (=審判がコーチに、一方的に上から物申されているような様子) ⇒ コーチと対面して話を聞いてしまったことが良くなかった。 コーチよりも若く、身長も大きくない分、対面すると見下ろされてしまいマイナスな印象になってしまう。 体の向きをコーチと同じ向きに合わせ、横に並んで話を聞く等の工夫が必要。</p>			
《審判主任》 古畑 香子 氏 (茨城)			

【感想・県内審判員へ伝えたいこと】

今回は、1泊審判員として参加させていただきました。昨年度も派遣で参加させていただいた大会でしたが、1回戦、2回戦と2本の割り当てを頂き、また違った緊張感をもって3日間臨むことができました。

今大会を通して、判定の根拠を持つことの大切さを改めて学びました。渡邊整ブロック長より、コミュニケーション力を高めることの必要性についてもお話を頂きましたが、それは、私たちが一つ一つの判定にしっかりと根拠や理由を持っていなければ成立しないものです。コーチやプレイヤーとのコミュニケーションは私自身大きな課題ですが、自分の判定の根拠をさらに明確にし、それを「言葉」で簡潔に説明できるようにする必要があります。明確な根拠をもって判定できるようにするための努力(プレイ・ルールの理解・位置取り等)を絶えず追究し、そして、自分の考えを言葉としてしっかり伝えることに、日頃から意識しチャレンジしていきたいです。

最後に、今回の派遣に際しましてご配慮頂きました渡邊整関東ブロック長、渡邊諭審判長をはじめ、県内審判員の皆様、そしてお世話になりました茨城県協会・審判員の皆様に心より感謝申し上げます。